

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案公報 (Y 2)

(11)実用新案出願公告番号

実公平6-37718

(24) (44)公告日 平成6年(1994)10月5日

(51)Int.Cl.⁵

A 44 B 19/26

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

(全 4 頁)

(21)出願番号

実願昭60-195054

(22)出願日

昭和60年(1985)12月20日

(65)公開番号

実開昭62-102406

(43)公開日

昭和62年(1987)6月30日

(71)出願人 99999999

吉田工業株式会社

東京都千代田区神田和泉町1番地

(72)考案者 南 弘雄

富山県魚津市本江1369-2

(74)代理人 弁理士 池谷 貞雄

審査官 棚橋 留香

(56)参考文献 実開 昭60-60912 (J P, U)

(54)【考案の名称】 スライドファスナー用スライダーの引手

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】引手本体(11)と、該引手本体(11)の基端部に穿設したスライダー本体(2)の柱(21)と係着する透孔(12)を有する連結部(13)とからなる金属または硬質合成樹脂等の硬質材からなるスライドファスナー用スライダーの引手(1)において、前記引手本体(11)の先端部に透孔(14)を穿設した摘み取付部(15)を成形し、該摘み取付部(15)には、その透孔(14)を埋めつくすと共に、摘み取付部(15)の外郭を含む全面を被覆する柔軟性と弾力性に富む軟質合成ゴムまたは軟質合成樹脂等から成る摘み(16)が形成され、かつ、摘み(16)の上部が摘み取付部(15)との間でめぐれ防止手段を設けたことを特徴とするスライドファスナー用スライダーの引手。

【考案の詳細な説明】

2

【産業上の利用分野】

この考案は、スライドファスナー用スライダーの引手に関するもので、特に金属または硬質合成樹脂等の硬質材からなる引手に関するものである。

【従来の技術】

スライドファスナー用スライダーは、例えばバックの中に沢山の荷物を入れた状態でファスナーを締めようとすると、ファスナーテープに横引きの力がかかるため、摺動抵抗が比較的大きくなる。従って引手とスライダー本体との連結部に捩り、曲げおよび剪断の応力が働くため、引手には強度が必要になり、従来から引手は金属または硬質合成樹脂で形成されていた。

しかし、引手が金属または硬質合成樹脂で形成されているため、手で摘んだ際、冷たい感じがしたり肌ざわりがよくない。また、スライダーに摺動抵抗が働くので、手

が滑ったりする恐れがあった。

そこで、引手を引張る際、指が滑らずスライダーを確実に摺動させることができるものとして、引手の先端部に穿設した孔内に、側壁面に設けられた周溝を孔の内周縁に嵌入させると共に凹凸部が形成された上下面を夫々引手本体の上下面上に夫々貫出させて固着された滑止体を設けたものとして実開昭60-60912号公報が知られている。

(考案が解決しようとする課題)

この従来の引手は、引手の先端部に穿設した孔内に、滑止体の側壁面に設けられた周溝を孔の内周縁に嵌入させ、また滑止体の凹凸部が形成された上下面を夫々引手本体の上下面上に夫々貫出させて固着したものである。

しかし、例えば、この引手を用いたスライダーをジャンバーに取付けたファスナーに使用した場合、スライダーを下から上に摺動させると引手の裏側から表側に向って大きな力がかかる。また、スライダーを下げる場合に、上記と逆に引手の表側から裏側に向って大きな力がかかるものである。このように引手を引張る際には、滑止体の上下のいずれか一方から大きな力が加わり、スライダーの摺動抵抗が大きい場合には引手の摘みに設けた滑止相が抜け落ちてしまう。

また、引手は、スライダー本体に対して直立した状態になったままになっていることがあるが、特にスポーツウェアに取付けたスライドファスナーの場合、これを着用してころんだりした時、引手が直立してその先端部の周囲が手や身体にあたって負傷することがある。このように、引手の先端部の周囲の凹凸が不慮の時に怪我等の原因となる。

さらに、この従来の引手は、ファスナーとして被着物に取付けた場合に、引手の先端部の周囲の凹凸が被着物と摺接し、被着物の生地を傷める等の問題がある。

この考案は、上記の事情に鑑みなされたものであり、その目的は、引手の摘みを引張ってスライダーを摺動させる際に、指先に無理な力がかかることなく指が滑らずにスムーズに、かつ確実に引張ることができ、またスライダーの摺動抵抗が大きい場合にも引手の摘みが抜け落ちてしまうことなく、さらに手や身体にあたっても怪我の心配がなく、しかも、被着物の生地を傷めることのないようにした事にある。

(課題を解決するための手段)

この考案は、上記目的を達成し、問題を解決するために、引手本体(11)と、該引手本体(11)の基端部に穿設したスライダー本体(2)の柱(21)と係着する透孔(12)を有する連結部(13)とからなる金属または硬質合成樹脂等の硬質材からなるスライドファスナー用スライダーの引手(1)において、前記引手本体(11)の先端部に透孔(14)を穿設した摘み取付部(15)を成形し、該摘み取付部(15)には、その透孔(14)を埋めつくすと共に、摘み取付部(15)の外郭を含む全面を被覆

する柔軟性と弾力性に富む軟質合成ゴムまたは軟質合成樹脂等から成る摘み(16)が形成され、かつ、摘み(16)の上部が摘み取付部(15)との間でめくれ防止手段を設けて構成するようにした、この構成によって課題を解決したものである。

(作用)

この考案は、上記のように構成したので、引手の摘みを引張ってスライダーを摺動させると、指と摘みとの間の摩擦抵抗が大きいが、指先に無理な力がかかることなく滑らずにスムーズに、かつ確実に引張ることができ、また、スライダーの摺動抵抗が大きい場合にもめくれ防止手段により引手の摘みが抜け落ちてしまうことがない。また、引手がスライダー本体に対して直立した状態になって手や身体にあたっても、摘み取付部の外郭を含む全面を被覆する柔軟性と弾力性に富む軟質合成ゴムまたは軟質合成樹脂等の摘みが形成されているので怪我等の心配がなく、しかも、被着物の生地を傷めることのないものである。

(実施例)

以下、この考案の実施例を添付図面を参照して説明する。

第1図および第2図に示すように、引手(1)は、引手本体(11)と、引手本体(11)の基端部に穿設した透孔(12)を有する連結部(13)と、引手本体(11)の先端部に透孔(14)を有する板状の摘み取付部(15)とからなる。これらは同一厚みを有している。

連結部(13)の透孔(12)には、スライダー本体(2)の上部に形成した柱(21)が係着している。

また、摘み取付部(15)には、その透孔(14)を埋めつくすと共に、摘み取付部(15)の外郭を含む全面を被覆する摘み(16)が形成されている。

摘み(16)は、柔軟性と弾力性に富む軟質合成ゴムや軟質塩化ビニール樹脂、軟質ポリエチレン、エチレン・酢酸ビニル共重合体(EVA)等の軟質合成樹脂や軟質合成繊維を射出成形した材料からなっている。

さらに、前記摘み取付部(15)の両側には凹部(17)が形成され、この凹部(17)に摘み(16)の上部が凹凸係合して引掛かるめくれ防止手段が形成されており、摘み(16)をつまんで引張った際に、摘み(16)がめくれたり、抜け落ちるのを防止している。

また、摘み取付部(15)の透孔(14)をできるだけ大きくしておけば、摘み(16)を指でつまんだ時、透孔(14)内に埋まっている軟質合成ゴムや軟質合成樹脂等の材料が弹性変形し、つまみ易くなる。勿論、摘み(16)は、柔軟性と弾力性に富んでいるので、前記透孔(14)を大きくしなくとも、指でつまんだ際、容易に変形し、凹凸ができるもので指が滑ったりしない。

なお、着色したものを用いれば装飾性を向上することができる。

また、図示していないが、あらかじめ摘み(16)の表裏

面に会社のマークや模様等の凹凸を形成して射出してもよい。

第3図ないし第7図は、引手の摘み取付部(15)の他の実施例を示すものである。

第3図は、摘み取付部(15)の両側に凸部(17')が形成され、この凸部(17')に摘み(16)の上部が凹凸係合して引掛かるめくれ防止手段が形成されており、摘み(16)をつまんで引張った際に、摘み(16)がめくれたり、抜け落ちるのを防止している。

第4図は、摘み取付部(15)の透孔(14)の上部に複数個の小孔(18)を設けて、摘み(16)を射出成形したもので、このようにめくれ防止手段が形成された摘み(16)を形成すれば、摘み取付部(15)への摘み(16)の取付強度が強くなると共に、摘み(16)がめくれたり、抜け落ちるのを防止する。

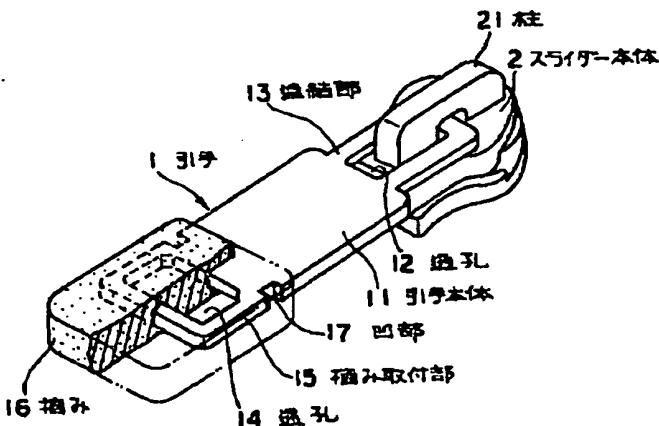
第5図は、摘み取付部(15)の両側全部に鋸歯状の凹凸部(17")を形成したもので、このようにめくれ防止手段が形成された摘み(16)を形成すれば、摘み取付部(15)への摘み(16)の取付強度を強くすると共に、摘み(16)の両側の変形移動を一層少なくし、摘み(16)の透孔(14)に埋まっている部分だけに無理な力がかからず、耐久性に優れた摘み(16)が得られる。

第6図は、摘み取付部(15)に複数の透孔(14')を形成したもので、摘み(16)を引張った際に、摘み(16)の摘み取付部(15)に穿設された透孔(14')に埋った部分にかかる力を全域で受けるようにし、耐久性に優れた摘み(16)が得られる。なお、摘み取付部(15)両側の凹部(17)は、第1図および第2図に示しためくれ防止手段と同様の構成である。

第7図は、透孔(14)の下部の摘み取付部(15)の表裏面を肉薄とし、下方に段部(19)を形成したもので、摘み(16)を引張った際に、摘み(16)にかかる力を段部(19)でも受けるようにして、耐久性に優れた摘み(16)が得られる。

(考案の効果)

【第1図】



この考案は、上記のように、スライドファスナー用スライダーの引手は、引手本体の先端部に透孔を穿設した摘み取付部を成形し、該摘み取付部には、その透孔を埋めつくすと共に、摘み取付部の外郭を含む全面を被覆する柔軟性と弾力性に富む軟質合成ゴムまたは軟質合成樹脂等の摘みで構成されているので、

手で摘んだ際、冷たい感じがせず、肌ざわりがよい。

また、引手の摘みを引張ってスライダーを摺動させる際に、指先に無理な力がかかることなく指が滑らずにスムーズに、かつ確実に引張ることができる。

さらに、ファスナーとして被着物に取付けた場合に、引手は摘み取付部の外郭を含む全面を被覆した摘みであり、被着物と摺接しても被着物の生地を傷めることはないと共に、ウエラーとしてこれを着用してころんやりした時、引手が直立して手や身体にあたる等の不慮の時にいても怪我等の心配がない。

この考案はさらに、摘み取付部の透孔を埋めつくす摘みであり、かつ、摘みの上部が摘み取付部との間でめくれ防止手段を設けているので、引手の摘みを指で引張って

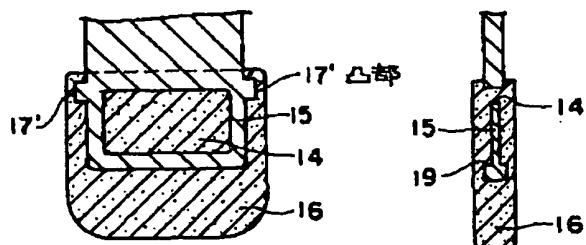
スライダーを摺動させる際に、上下のいずれか一方から大きな力が加わり、摺動抵抗が大きい場合においても引手の摘みがめくれたり、ずれたりすることなく、また、抜け落ちることもない等のきわめて優れた実用効果を発揮するものである。

【図面の簡単な説明】

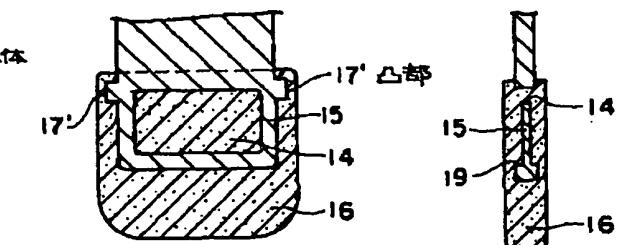
第1図は、この考案の一実施例を示す引手を装着したスライドファスナー用スライダーの斜視図、第2図は、第1図の引手の要部を一部破断したスライドファスナー用スライダーの平面図、第3図ないし第7図は、この考案の他の実施例を示す引手の摘み取付部の断面図である。

1……引手、11……引手本体、12……透孔、13……連結部、14……透孔、15……摘み取付部、16……摘み、17……凹部、17'……突部、17"……凹凸部、18……小孔、19……段部、2……スライダー本体、21……柱。

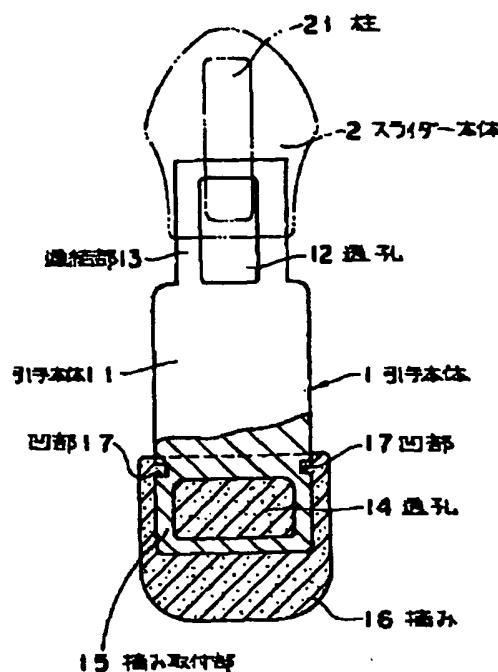
【第3図】



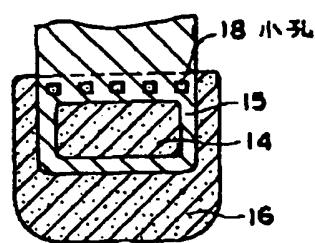
【第7図】



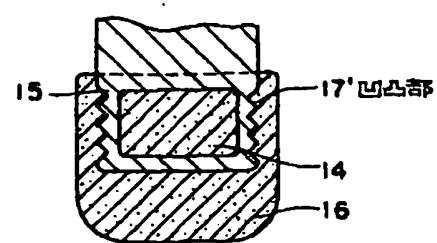
【第2図】



【第4図】



【第5図】



【第6図】

